

農家の技術・知識向上のための農業研修施設の建設計画の引渡し式の実施

10月25日、農家の技術・知識向上のための農業研修施設の開所式が、中央マシヨナランド州ムビレ郡において開催されました。本施設は小規模農家に対して、農業技術及び商取引に関する研修を提供するもので、同地域の家畜・農民が干ばつ等の自然災害に対応できる家畜飼育・農業生産性を向上させ、適正価格での販売による所得向上を目指しています。このプロジェクトは、我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力により89,969米ドルを支援し、NGOジンバブエ教会委員会によって実施されました。

ムビレ地方郡では、降水量が少なく、乾燥な気象が続くため、農業において作物を栽培することが難しい状況でありながら、多くの住民が小規模農家として生計を立てています。しかしながら、農業や畜産に関する情報のアクセスが少なく、質の高い作物や家畜を生産することができず、収入が十分に得ることが難しい状況にありました。また、市場とのつながりが希薄なため、農家は家畜を市場価格よりもかなり安い値段で買い取ったり、遠く離れたハラレの市場まで家畜を運ぶのに高い費用をかけたりにしていました。さらに、森林伐採による気候変動が放牧地の枯渇を招いているため、家畜の病気や死亡を招き、農家の収入や生活の損失につながっている状況でした。

新しく設置された農業研修施設では、ソーラー照明付きの研修棟、トイレ棟、ソーラー発電付の井戸、フェンスが設置されました。小規模農家を対象に、定期的な洗浄による病気の予防、飼料作物の栽培、気候変動に対応した農業、マーケティングなど、持続可能な畜産に関する研修を実施します。また、家畜市場の見本市を開催するなど、農家と買い手をつなぐ役割も果たします。農家が干ばつの年でも家畜の飼育を継続させ、家畜の売却で適正価格を実現できるよう支援することが期待されています。年間約1,200人の農家が研修を受ける予定です。

引渡し式で田中大使は、新しい施設が今後何年にもわたって地域住民の生活を大きく向上させることに期待を表明しました。それに加え、政府当局、農民組合、農民を含むすべての関係者を積極的に活動に参加させることの重要性を強調し、新しい施設に対するオーナーシップを感じてもらえるよう努めてほしいと述べました。

1989年にジンバブエで開始された草の根・人間の安全保障無償資金協力は、ジンバブエ全土で150のプロジェクトを支援し、1,500万米ドル以上の資金を提供してきました。このスキームの主な目的は、草の根レベルの開発を促進し、ジンバブエの人々の人間の安全保障を強化することにあります。



建設された農業研修施設



設置された水タンク



新設された井戸用ソーラーパネル



建設されたトイレ棟



テープカット



田中大使による水源の確認



田中大使によるスピーチ



ディミング代表によるスピーチ



日本からの支援を示す看板